吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人病児保育をつくる会
	記入者名	三上　久子
	部署名	子育て支援課
	記入者名	飯野　耕太郎

1｜協働事業の概要

協働事業名	緊急サポート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人病児保育をつくる会
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】 緊急性を伴う預かりを行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援する。 【目標値】 利用件数 40 件	
事業の内容	小学生まで児童を対象に病気、急な出張、保育施設での急な呼び出しがあった場合の送迎など、緊急性を伴う預かりを会員同士の相互の助け合いで行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	利用件数 5 件（預かり 5 件、送迎 0 件）、利用会員数 223 名、協力会員数 26 名	
協働事業決算	総額924，000円　（うち市負担分924，000円）	
	簡単な内訳	委託料　（内訳）人件費　657，519円 広報費　41，555円 講習会費用　64，869円 保険費用　9，713円 通信費　42，139円 一般管理費　91，667円 その他　16，538円
実施期間	令和4年4月1日　から令和5年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年４月２０日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 サポート会員の加入に向けて、講習会の実施時期や事業内容について共有を図った。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 サポート会員に係る講習会の周知方法を改め、受講者が増加するような改善策を図り共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島　眞由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	飯野　耕太郎

1｜協働事業の概要

協働事業名	ホームスタート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】育児に不安を抱えている保護者を対象に家庭訪問を通じて育児相談を行い、保護者の孤立を防ぐ。 【目標値】訪問回数：230回	
事業の内容	未就学児を抱える引きこもりがちな親に対して、一定のノウハウを身につけた地域ボランティアが自宅へ出向き、何気ない会話のなかで孤立感を防止し、児童虐待を防止することはもとより、家族のエンパワーメントを図ることで子どもの利益を実現する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	訪問回数：297回 ビジター数：38名	
協働事業決算	総額1，697，000円（うち市負担分1，697，000円）	
	簡単な内訳	人件費：1，254，240円 研修費：　131，000円 通信費：　96，000円 消耗品：　20，000円 交通費：　80，000円 その他：　115，373円
実施期間	令和4年4月1日　から令和5年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年４月２７日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 コロナ禍において、ビジターを家に入れるというリスクがあるにもかかわらず、利用者からの一定のニーズがあることを共有した。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 コロナ感染予防対策について徹底しながら、多様化するニーズに対応できるよう、ビジター（訪問支援員）のスキルアップと人員確保についての必要性を共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島　眞由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	飯野　耕太郎

1｜協働事業の概要

協働事業名	子育て支援センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】児童福祉法に定められた子育て支援事業の一つ。地域における子育てを支援するため、子育て中の親子の交流の場の提供、子育て相談、地域の子育て関連情報の提供など、子育て支援センターの運営を行う。(美南子育て支援センター及び中央子育て支援センター) 【目標値】 利用者数(延べ)　合計13，000人	
事業の内容	(1)子育てサロン等子育て支援事業の展開 (2)出前講座の開催 (3)吉川市子ども・子育て応援サイト「よしよしねっと」の管理運営	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	利用者数(延べ) 美南子育て支援センター:7，138人 中央子育て支援センター:4，854人	
協働事業決算	総額13，732，000円　(うち市負担分13，732，000円)	
	簡単な内訳	人件費　12，874，796円 消耗品　80，000円 負担金等　65，200円 研修費　15，000円 講師謝金　60，000円 賠償保険等　45，130円 その他　591，306円
実施期間	令和4年4月1日　から令和5年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年４月２７日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 コロナ対策の手法や、提供されている備品などについて、現場目線の意見が取り入れられるなど、それぞれの立場を尊重し合える関係性が得られた。 目的のすり合わせをして、目的に合った行動の選択を共有できた。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 子育て支援センターを運営する上で、疑問や不安などを感じたときは、言語化して共有するとともに、記録を行い、より目的を意識した行動の選択ができるように改善を図った。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年4月14日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事　野田　妙子
	部署名	健康長寿部　長寿支援課
	記入者名	近藤

1｜協働事業の概要

協働事業名	老人福祉センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行　政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、老人福祉センターの指定管理者として施設の管理をするとともに、高齢者に対して各種の相談に応じ、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションの供与などの運営をすることを目的とする。	
事業の内容	老人福祉センターは高齢者の教養の向上、健康の保持増進、社会参加の拡大、いきがいづくりなどを目的に設置された施設である。平成18年度から吉川市連合長寿会が指定管理者として運営していたが、令和2年度より NPO 法人たすけあい・よしかわが指定管理者となっている。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	1　施設利用状況 令和4年度利用者数：19，709名 利用団体数：554団体 2　寄り日開催状況 令和4年度クラブ数：121団体 参加人数：1，311名 3　自主事業 ほっこりヨガ教室　回数：17回　参加人数：133名 ぱれっとサロンなないろ　回数：27回　参加人数：663名 ぱれっとシアター　回数：9回　参加人数：275名 スマホ教室　回数：24回　参加人数：68名	
協働事業決算	総額　29,524,000 円（うち市負担分　29,524,000 円）	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和4年　4月　1日　から　令和5　年　3　月　31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年　４月１１日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 コロナの影響はいまだに残るが、施設利用者は戻りつつあり、新規利用者も増えている。各種自主事業に工夫を凝らし、好評を得ている。今までセンターを利用したことがない高齢者が参加するような企画運営を続け活性化を図っていきたい。 【行政⇒団体】 スマホ講座をはじめ、コロナ禍でできる限りの事業展開をしている。引き続き、センターの活性化に努め、利用者の拡大と満足度の向上に努めてほしい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 【団体】 今後も利用者の需要を見極め、求められる自主事業を検討・展開し、新規の利用者を増やしていきたい。 【行政】 高齢者の憩いの場、活動・活躍の場として、誰もが利用しやすい施設となるよう、行政として協力していきたい。また、連合長寿会の事務局として、引き続きサポートをお願いしたい。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年4月14日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事　野田　妙子
	部署名	健康長寿部　長寿支援課
	記入者名	石塚晶則

1｜協働事業の概要

協働事業名	生涯現役の養成事業～世代を越えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行　政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、これまで地域社会と関わる機会が少なく地域デビューに結びついていない男性シニアや、これから退職時期を迎える男性シニアなどに向けた地域活動等への参加支援を実施することで、地域デビューへの不安を取り除くとともに地域活動等への参加促進を図ることを目的とする。	
事業の内容	男性シニアの地域活動などへの参加を後押しするため、NPO 法人たすけあい・よしかわに事業を委託し、シニア元気塾（グループ別活動）を実施した。また、シニア元気塾たまり場の運営を行い、参加者の自主的活動の支援、交流、情報交換を行った。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	1　シニア元気塾の開催 野菜作り、高齢者福祉の増進（福祉有償運送事業）、スポーツで子どもたちと交流、吉川市歴史探訪・ウォーキングの4グループで活動した。 参加者数：延べ 389 名 （福祉有償運送事業については 1,631 件の利用があり、9,326 キロの運送を行った。） 2　シニア元気塾たまり場の開催 毎月第1・第3水曜日に平沼地区高齢者ふれあい広場において、参加者の自主的活動（笑いヨガ、歌声喫茶）の支援、シニアへの情報提供と相互交流の場作りを行った。 参加者数：延べ 208 名	
協働事業決算	総額　982,000　円　（うち市負担分　982,000　円）	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和4年4月1日から　令和5年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年　４月　７日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 多くの市民に参加してもらうためには、行政の支援（広報等）は重要。コロナ禍においては、感染対策をしながら参加者の自主的な活動を支援していく必要があり、また持続性のある事業展開のために子育て世代も巻き込んでいきたいと考えている。地域に根ざした市民団体の力という強みと役割を活かして、活動できている。 【行政⇒団体】 コロナ禍において活動やイベントの企画運営が困難な状況であるが、各グループで工夫し、地域活動の参加促進に努めていた。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 【団体】 引き続き、持続性のある事業展開を目指しつつ、事業の目的に沿うような事業を展開し、新たな参加者の新たな活動の創出につなげていく。 【行政】 事業目的である男性シニアおよびアクティブシニア層の地域活動の参加促進を図るため、事業の参加者募集や団体の取り組みについて広報を行うなど、引き続き支援を行っていくとともに、適宜事業内容に等ついて見直しを進めていく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年　6月　5日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子　学習部会長　郭　育子
	部署名	市民参加推進課
	記入者名	星野　有香

1｜協働事業の概要

協働事業名	日本語教室	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	市民参加推進課
事業の目的及び目標値	日本語が話せない外国出身の方に、日本語をはじめ、日本の生活文化などを教えるとともに、参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、多文化共生、異文化交流の推進を図る。	
事業の内容	主催:吉川市国際友好協会(スタッフ管理、教材・備品購入など) 共催:吉川市(施設予約、資料印刷、日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催など) ボランティアスタッフが日本語で日本語を教える形式で実施。基本的に学習者とスタッフが1対1で生活に必要な日本語を学ぶ。 ※コロナの影響で第2、第4火曜日のみ実施していたが、1 月から昼の部のみコロナ前の毎週火曜日開催に戻すことができた。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	①日本語教室(おあしす) 第二、第四火曜日　午前の部(10 時～12 時)　※1月から毎週火曜日に実施 第二、第四火曜日　夜間の部(19 時～21 時) ・年間30回実施(午前の部)、年間24回実施(夜間の部) ・参加者延べ人数 午前の部　学習者88人、スタッフ173人 夜間の部　学習者99人、スタッフ109人 合計　学習者187人、スタッフ282人 ②日本語教室(吉川美南) 第二、第四土曜日　(14時～16時)　※10月から実施(9月プレスタート2回) ・年間14回実施 ・参加者延べ人数 学習者人50、スタッフ50人 合計　学習者 41 人、スタッフ 76 人	
協働事業決算	総額　43,880　円　(うち市負担分　43,880　円)	
	簡単な内訳	支出　43,880　円 (　教室用　教材テキスト書籍　ホワイトボード等文具備品　) ※市から吉川市国際友好協会への補助金 55 万円 うち日本語教室への補助率 10/10、43,880 円補助
実施期間	2022年　4月　1日　から　2023年　3月　31日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年　６月　４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 ・可能な限り積極的に教室活動にも協働で加わっていただける事でボランティアスタッフと学習者の確保にも連絡やコミュニケーションが良好になり安定した運営を維持することができた。 ・日本語教室の開催場所確保においても臨機応変に迅速に手配してもらうことができ円滑に運営できた。 ・課題として、おあしす教室の夜の部の毎週開催に向けボランティアスタッフの確保とまだ新しい吉川美南教室の周知が残されている。 【行政⇒団体】 ・コロナの状況に応じて、午前の部の教室を毎週開催にできたことや、吉川美南に日本語教室を立ち上げるなど、スタッフの熱意と行動に感謝している。 ・ボランティアスタッフの人数不足の課題が出てきているので、新しいボランティアがまずは増えていくように周知に力を入れていきたい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 教室記録や登録者名簿（スタッフ、学習者）のデジタル化、連絡ツールの導入を検討したい。 （ホームページ、SNS のタイムリー活用と連携、教室イベントのデジタル発信告知の方法）		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	R5年　6月　日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子
	部署名	学校教育課
	記入者名	久富　芳明

1｜協働事業の概要

協働事業名	外国人児童生徒への日本語学習支援	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	学校教育課
事業の目的及び目標値	市内小・中学校に就学する外国籍児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足しているために、円滑な学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して個別に日本語学習支援を行うことで、円滑な学校生活を送るとともに、学力の向上を図る。	
事業の内容	・諸外国から入国（転入）し、市内小・中学校へ就学した児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足していると認められる場合に、学校長からの申請に基づき、市教育委員会（学校教育課）が日本語学習支援業務の委託先である吉川市国際友好協会へ支援活動を依頼する。 ・吉川市国際友好協会は、支援対象児童・生徒、学校等と調整の上、支援活動担当者、活動日等を決定し、市教育委員会及び学校へ通知し、活動を開始する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	対象となる児童生徒　17人	
協働事業決算	総額402，000円（うち市費負担分402，000円）	
	簡単な内訳	活動単位　一時限　小学校45分、中学校50分 一時限あたりの委託料　1，000円
実施期間	令和4年4月11日　から　令和5年3月24日　まで	
協働の形態	□共催　☑委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：令和３年４月　　日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 支援授業時間毎の活動報告書を支援者毎に作成し、課題を相互に確認することが出来た。 児童生徒により個人差があり、コミュニケーション能力の向上を目指した。 【行政⇒団体】 活動報告書により団体と学校間での情報の共有は図られている。より一層の綿密な連携が望ましい		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 【団体】 本事業の意図を支援スタッフにも理解してもらい、児童生徒の能力向上をより高める。 【行政】 教職員に対しても本事業の意図を理解してもらう。 引き続き、国際友好協会、学校、市教育委員会間で必要に応じた連携を図れるようにする。		

資料４－８

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年　4月　　日	
記入者	団体等名	三輪野江小学校区子どもの体験活動実行委員会
	記入者名	宮田　淳子
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	尾花　香穂　　笹原　康友

1｜協働事業の概要

協働事業名	吉川市子どもの体験活動	
事業の実施者	団体等	三輪野江小学校区子どもの体験活動実行委員会
	行　政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	家庭・地域・学校が一体となって子どもの生きる力を育むため、各小学校区に設置した実行委員会により体験活動等を企画し、子どもたちの奉仕活動や体験活動などを推進する。	
事業の内容	市内の子どもを対象とした事業目的に総活動を実施する団体（実行委員会）に対し、交付金を交付する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	令和4年度実績 ○三輪野江小学校区　2事業　44名	
協働事業決算	総額　4，800円（うち市負担分　4，800円）	
	簡単な内訳	企画・会議費　166円（うち交付対象　166円） 子どもの活動費　3，980円（うち交付対象　3，980円） 事務費　654円（うち交付対象　654円）
実施期間	令和4年4月1日　から　令和5年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	△	△
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年３月２９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 活動の様子を見学（撮影記録）するため、事業当日に生涯学習課職員にも参加いただいた。 子どもたちの良い体験の場になった。 【行政⇒団体】 今年度は、コロナ対策に配慮しつつ、実際に現場に足を運び、活動の様子を見ることができた。 活動の継続・拡大のため、子どもの体験活動事業について、一層の周知を図っていきたい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 今後も引き続き協働し実施することで、子どもたちが楽しんで参加できるよう努める。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年4月　　日	
記入者	団体等名	指定管理者 OIT グループ
	記入者名	松浦　公則・竹林　聡
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	笹原　康友

1｜協働事業の概要

協働事業名	市民交流センターおあしす指定管理者事業	
事業の実施者	団体等	指定管理者OITグループ
	行　政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	市民交流センターおあしす、市立図書館、視聴覚ライブラリー、中央公民館図書室、旭地区センター図書室の管理運営に関し、指定管理者による適切な業務が遂行されるよう管理監督を行う。	
事業の内容	市民交流センターおあしすや市立図書館をはじめとする各図書室の運営と管理を行うとともに、おあしす運営協議会や図書館協議会を開催する。また、利用者に対する満足度調査を行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	（令和4年度実績） おあしす利用実績　　利用件数:6，823件、利用人数:106，720名 市内図書館(室)利用実績　貸出冊数:439，692冊、利用人数:101，767名、 市立図書館入館者数:169，547名	
協働事業決算	総額　236，502，454円（うち市負担分　236，502，454円）	
	簡単な内訳	施設管理業務委託料　236，502，454円
実施期間	令和4年4月1日　から　令和5年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　☑委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年３月２７日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 毎月の定例会での報告、情報交換を柱として、新型コロナウイルス感染症への対策、迷惑利用者への対応など、課題に応じて、タイムリーな打合せ、情報共有、課題解決を図ることが出来た。 【行政⇒団体】 主にコロナ禍における施設管理、利用者対応、ワクチン接種会場使用対応について話し合った。また、施設老朽化に伴う設備修繕箇所について、限られた予算の中での最良の方法を協議し、対応した。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 令和5年度実施予定の中規模修繕において、運営に支障をきたさないよう、また、利用者の方に安心してご利用いただけるよう対応していくことを話し合った。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和　5年　4月　14日	
記入者	団体等名	子育て広場プーさん
	記入者名	嶋田　曜子
	部署名	生涯学習課　中央公民館
	記入者名	森　恵子

1｜協働事業の概要

協働事業名	幼児家庭教育学級(赤ちゃんサロン)「ゼロママ集まれ！」	
事業の実施者	団体等	子育て広場プーさん
	行　政	吉川市中央公民館
事業の目的及び目標値	子育て中の母親が抱える子育ての不安・悩みやストレス等を解消する一助となるよう、「子育て広場プーさん」と協働で開催し、年齢の近い子どもを持つ母親が集まる場を提供するだけでなく、専門の講師等から有用な技術を得ることができる事業を展開する。	
事業の内容	わらべ歌、絵本の読み聞かせ、ピラティス、ベビーマッサージなど	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	実施回数　全10回 参加者数　51組　105人	
協働事業決算	総額　22,000　円（うち市負担分　22,000　円）	
	簡単な内訳	会場使用料免除 講師謝礼金　22,000円を市が負担
実施期間	令和　4年　4月　27日　から　令和　5年　3月　22日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	△	△
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和　5年　3月22日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 例年同じ講師でお願いしているが、講師の方が前年以上の内容を毎年工夫してくださっていて、ありがたい。 【行政⇒団体】 コロナの中での開催状況も柔軟に対応いただき、毎回講師の調整など行っていただきスムーズに開催できている。また、新たな講師も見つけていただくこともしていただいている。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 コロナが収まってきた中で、どのような形で開催を継続していくかなど事前に打ち合わせをしながら進めていく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和 5年 4月 14日	
記入者	団体等名	えほんのひろば
	記入者名	古川 和江
	部署名	生涯学習課 中央公民館
	記入者名	森 恵子

1｜協働事業の概要

協働事業名	えほんのひろば	
事業の実施者	団体等	えほんのひろば
	行 政	吉川市中央公民館
事業の目的及び目標値	絵本の素晴らしさに触れ、親しみを感じ、子どもたちが豊かな心を育むことを目的に、えほんのひろばのボランティアスタッフと共に開催するものです。	
事業の内容	お楽しみ会や、七夕、クリスマスのイベントなどを実施。ボランティアスタッフによる絵本の読み聞かせや遊び、ゲームなどを行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	実施回数 全4回 参加者数 87人	
協働事業決算	総額 0 円（うち市負担分 0 円）	
	簡単な内訳	会場使用料免除 講師謝礼金 今年度は 0 円
実施期間	令和 4年 7月 2日 から 令和 5年 1月 28日 まで	
協働の形態	☑共催 □委託 □補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	△	△
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和　5年　1月28日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 コロナで事業を休止していましたが、今年度のたなばたまつりから再開し、予定どおりの日程は開催することができた。 【行政⇒団体】 再開について話し合いをし、柔軟に対応いただけました。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 コロナが収まってきた中で、事前に打ち合わせをしながら毎回進めていく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和5年4月15日	
記入者	団体等名	吉川市自治連合会
	記入者名	髙﨑　康男
	部署名	吉川市市民参加推進課
	記入者名	岡庭　侑香

1｜協働事業の概要

協働事業名	地域課題を地域で解決するための勉強会	
事業の実施者	団体等	吉川市自治連合会
	行　政	吉川市市民参加推進課
事業の目的及び目標値	様々な地域課題の解決に向け、市民と行政との協働で研究を行い、活気と幸福実感あふれるまちを目指す。	
事業の内容	①地域減災班②多文化共生班③自治会課題班の3つの分科会に分かれ、「地域課題を地域住民が解決するための事業」について研究・実施した。 【令和4年度の取り組み】 ① 多文化共生班…自治会や生活の困りごと等に関するアンケート集計結果を報告 「やさしい日本語でつながる」について、講師を招き講話を開催 ② 自治会課題班…「リビングラボ」について、講師を招き講話を開催 ③ 中曽根小学校区まちづくり協議会設立…先進地視察（埼玉県鶴ヶ島市等）、 「中曽根小学校区まちづくり協議会減災プロジェクトX2022」の開催	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	令和4年度実績（実施日、参加人数） ①多文化共生班…1/23（10名）、2/20（8名） ②自治会課題班…3/14（12名） ③中曽根小学校区まちづくり協議会…6/1、7/12、8/8、10/31、11/26、12/19（各12名） 減災部会…9/9、9/12、10/12、11/25、2/8、3/2　（各6名）	
協働事業決算	総額　124，620円（うち市負担分　124，620円）	
	【内訳】 講師謝礼：124，620円（市負担）	
実施期間	令和4年4月1日　から　令和5年3月31日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年４月１４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 様々な地域課題を解決するために、自治会関係者だけではなく、困りごとがある当事者（外国人の方等）の話を直接聞く機会をどう増やしていくかが課題である。自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら議論することで、本当の意味で様々な立場の方に「吉川市に住んで良かった」と思っていただけるまちづくりにつながると感じた。 【行政⇒団体】 自治会の枠を超えた新たな地域コミュニティ組織の取り組みについて、当市において初めての設立事例となった。減災についての訓練を実施し、地域間の交流の場が図られたが、今後については、新たな地域コミュニティ組織への理解をどう深めていくかが課題である。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 自治会活動においては、コロナ禍で地域イベントの自粛が続き、会員間の連携が以前よりも弱まっているなかで、自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら連携を深めていく必要がある。次年度は、新たな視点で地域課題を捉え、分科会テーマを再設定したり等、さらに活動内容を広げられるよう、引き続き検討していく。		